

学校教育目標	「心も体も元気な岡村っ子」 ★おもいやりをもち、かがやく自分を求めて、むちゅうになって共に学び、みらいを創っていく子 ○学習を楽しみながら、課題をもってその解決や達成に主体的に、粘り強く取り組む子を育てます。(知) ○自分と友だちの心と体を大切に、前向きに問題解決できる子を育てます。(徳) ○運動を楽しみながら、課題をもってその解決や達成に粘り強く取り組む子を育てます。(体) ○公共心を磨き、自律し、地域で活躍する子を育てます。(公) ○多様性を認め、社会につながる問題等を友だちと考え、その解決や達成に粘り強く取り組む子を育てます。(開)					
	創立 61 周年 児童生徒数: 380 人	学校長 川村真弘 主な関係校: 岡村中学校 藤の木中学校	副校長 森下 誠	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 4

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	岡村中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <心身ともにたくましく生きる力> 自分で考えて主体的に行動できる子ども 粘り強く前向きに問題解決できる子ども 多様性を認め、協働できる子ども	岡村中学校 磯子小学校 滝頭小学校 岡村小学校	友だちや地域の人たちと積極的に関わり、めあてや問題解決に粘り強く取り組む子 ・地域の夏祭りや清掃活動に、1中3小学校がそれぞれ参加する。(年2回) ・岡村中ブロックで年2回の授業研究会及び情報交換会を行う。 ・岡村中学校で年2回、児童生徒交流事業を実施する。 ・岡村中学校の生徒が3小学校で職場体験を行う。(年1回一日) ・ブロック内で教務主任会を行い、情報交換等を行う。(年3回)

中期取組目標	○思いやりをもち、輝く自分を求めて、夢中になって共に学び、未来を創っていく子どもを育てます。 ・横浜市立カリ・マネ要領に示す三つのつながり(授業・人・学びの場)を重視するとともに、自分づくり教育の視点を具体的な資質・能力として全ての教育活動におけるねらいとし、子どもにとって魅力ある教育課程を編成します。 ・重点研究に人権教育の視点を加え、全ての子どもが運動を楽しみ、自己肯定感を高めることができる授業づくりを実践研究します。その考え方を、全ての教科・領域等へ広げていきます。 ・新教育課程に基づく授業を含む全教育活動が充実するための学校教育環境の工夫・改善を推進します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 生きてはたらく知 担当 研究グループ	①個別最適な学びと協働的な学びの実現、ICT教育の推進、主体的・対話的で、深い学びの充実を進める。 ②一人ひとりの学びを大切に、少人数指導や教科分担制による指導などの充実を進める。 ③学習習慣形成のために、家庭学習や読書活動の充実を進める。
<b>徳</b> 豊かな心 担当 指導グループ	①朝のあいさつ運動、なかよし班活動や人権関連活動など、児童主体による活動で心の育成の充実を進める。 ②「特別の教科 道徳」を核とする道徳教育の教育課程の精選・開発を進める。 ③幼保小連携事業、小中一貫教育・交流事業や地域ボランティア参加クラブ活動等の交流活動の充実を進める。
<b>体</b> 健やかな体 担当 体育研究部	①友だちと一緒に多くの教科に題材を求め健康を意識し人権感覚を醸成する授業改善に取り組む。 ②学習や生活の習慣改善のために、学校保健委員会の展開を工夫する。 ③運動を楽しむ子を育てるために、縄跳びタイムや運動的集会活動を実施する。
<b>公</b> 自分づくり教育(キャリア教育) 担当 学習指導評価グループ	①体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自己表現を楽しみながら、一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。 ②自分づくりパスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見直し振り返り、変容や成長を自己評価できるようにする。 ③清掃・給食・日直等当番活動や係活動を通して、勤労意欲を高める。
<b>いじめへの対応</b> 担当 いじめ防止対策委員会	①月1回、いじめ防止対策委員会を開催し、案件の経過確認を行い、再発防止に努める。 ②年に2回、5月は記名式でいじめに関する児童アンケートを実施し、早期発見及び指導の機会とする。 ③「いじめ」を始めとする児童理解・児童指導に関わる教職員研修を、年3回実施する。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b> 担当 教務会、C研、岡村小PJT	①研究・研修を年間を通じて多教科・領域で多角的に実施し、ミドルリーダーが講師となって授業研究会を行う。 ②シェアリーダーシップ制:C研を組織内に設置しミドルリーダーが全体を見通して学校運営に直接関わり人材育成に繋げる。 ③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。
<b>児童生徒指導 人権教育</b> 担当 指導グループ	①子どもの課題や変容を正確に把握するために、YP:学級アセスメント調査を年2回実施する。 ②正しい判断力や行動力を育てるために、社会的スキル横浜プログラムを積極的に活用する。 ③問題の早期発見に努め、チーム教職員集団の共通理解の下、その解決に取り組む。
<b>多文化共生</b> 担当 国際教室担当	①外国の言語や習慣、文化等に触れさせ、全校児童に多文化共生の意識をもたせ、豊かな人権感覚を醸成する一助とする。 ②外国籍及び外国につながる児童の支援のため、指導企画課やひまわりなどの関係機関との連携を図る。 ③外国籍及び外国につながる児童の状況を的確に見取り、DLAによる学習言語能力測定やJSLカリキュラムの推進を図る。
<b>特別支援教育</b> 担当 指導グループ	①学習等に課題をもつ子どものために、個別指導教室(けやき教室)を実施する。 ②個別支援学級の子どもの成長を促進するために、学習環境や交流活動等を工夫し適切な配慮を促進する。 ③子どものよりよい育みを推進するために、専門機関(子ども家庭支援課、療育センターなど)との連携を進める。
<b>地域学校協働活動</b> 担当 地域学校協働本部	①地域、保護者による登下校時の見守り活動について、地域学校協働本部を核に協議をして、安全対策の充実を図る。 ②読み聞かせ、クラブ活動、地域行事等に対して地域学校協働本部が検討し、積極的に参画する。 ③長野県池田町と岡村町内会との交流事業を地域学校協働本部が補助する。